



小さな市における 医師会のメリット

芦別市医師会
野口病院 副院長

小田 淳

私は、医療法人北武会に昨年4月から勤務しております。本会は3老人病院をはじめ多数の老人医療関連施設のほか、治験業務部門を有しております。私は治験業務に従事する予定でした。ところが、たまたま、傘下の芦別野口病院の副院長が同年3月に退職することになり、急きよ、後任として赴任してはや1年余りとなります。赴任当初より、芦別市医師会に入会させていただき、当直などで出席できない時を除いて、医師会主催の講演会や歯科医師会および薬剤師会との合同忘年会などに欠かさず出席しております。

小さな市町村の医師会のメリットとしては、どこでも同様だと思いますが、このような会を通じて、会員の皆さんとすぐ顔見知りになれることです。当院は80床ですし、老人病院ですからCTなどの設備を備えることはできません。また、外科系の治療もできません。従って、市立芦別病院の諸先生方には、さまざまな疾病の患者さんで大変お世話になっております。

一方で、慢性的医師不足のために、市立病院内科の外来は基本的に午前だけです。午後は当院で代わって患者さんを診察する場合があります。当然、小さな（国有林のおかげで面積は極めて広いのですが…人口は減少する一方です）市ですので、ほかの病院や開業の先生方とも患者さんを通じてさまざまな折衝が生じます。このような際に互いに顔見知りであると、スムーズにことが進むのは言うまでもありません。

医師会の多彩な活動はコミュニケーション作りに留まることではないことは、重々承知しております。しかし、冒頭に書いた事情で突然赴任して、以前は芦別市に御縁のなかった私にとりましては、平素より会員の先生方とコミュニケーションをとらせていただだけでも、芦別市医師会の存在は大変ありがたいの一言です。



専門医であり続ける こと

帯広市医師会
たかはし内科・呼吸器内科クリニック 院長
高橋 聡 貴

縁があって帯広で開業医となり、6年近くが過ぎました。勤務医の頃、所属医局の配慮で、いろいろな病院で勤務させていただき、専門医資格も取ることができました。さて、開業医になってしばらくたち、この専門医資格、維持するべきなのか悩みます。

いろいろと専門医をお持ちの先生がいるかとは思いますが、いざ開業してみると資格は生かされているのか、と疑問に思っています。私のクリニックに専門医だからと来院される患者様はどれだけいるのかと。ただ、せっかく取った資格だからと、専門医更新のため、足しげく総会、地方会などに通っている状況です。私が所持している専門医も、5年ごとに更新がありますが、この更新も日々診療の中では、なかなか難しい。幸い週末に総会がある場合は、診療終了後に飛行機でかけつけますが、それもすべてを聴講することはできません。インターネットを経由して、オンデマンドで教育講演の聴講等により単位が認められるようになれば、どれだけか助かるのに、と思います。

今年、4月の日本内科学会総会、呼吸器学会学術講演会、5月のアレルギー学会春季臨床大会に出席しました。私も人のことを言える資格はありません。しかし、日本内科学会総会で見かけた光景ですが、参加費のみ支払い、会場をあとにする先生方の多いこと多いこと。単位を取り更新することが、専門医の質の担保することになっていないような気がします。もちろん、熱心に聴講されている先生方、発表をされている先生方がいるのも事実。また、同じ道内にいながら、なかなか会うことができない諸先生方と、お酒を酌み交わす機会になることもあり、学会総会を否定するつもりはありません。

専門医に限らず、今後、医師偏在の切り札としての総合医といった場合においても、この更新ということがある限り、その機会を得やすい交通利便な都市部に医師が向かいやすい状況があるのではないかと思います。必ずしも都市部とはいきれない帯広に開業し、地域のために頑張っていきたいと思っているものの、代診の確保もできず、長時間留守にもできず、学会参加もままならない、けれども悲しいかな専門医を流してしまうこともできない地方開業医の私見を述べました。